



session 5

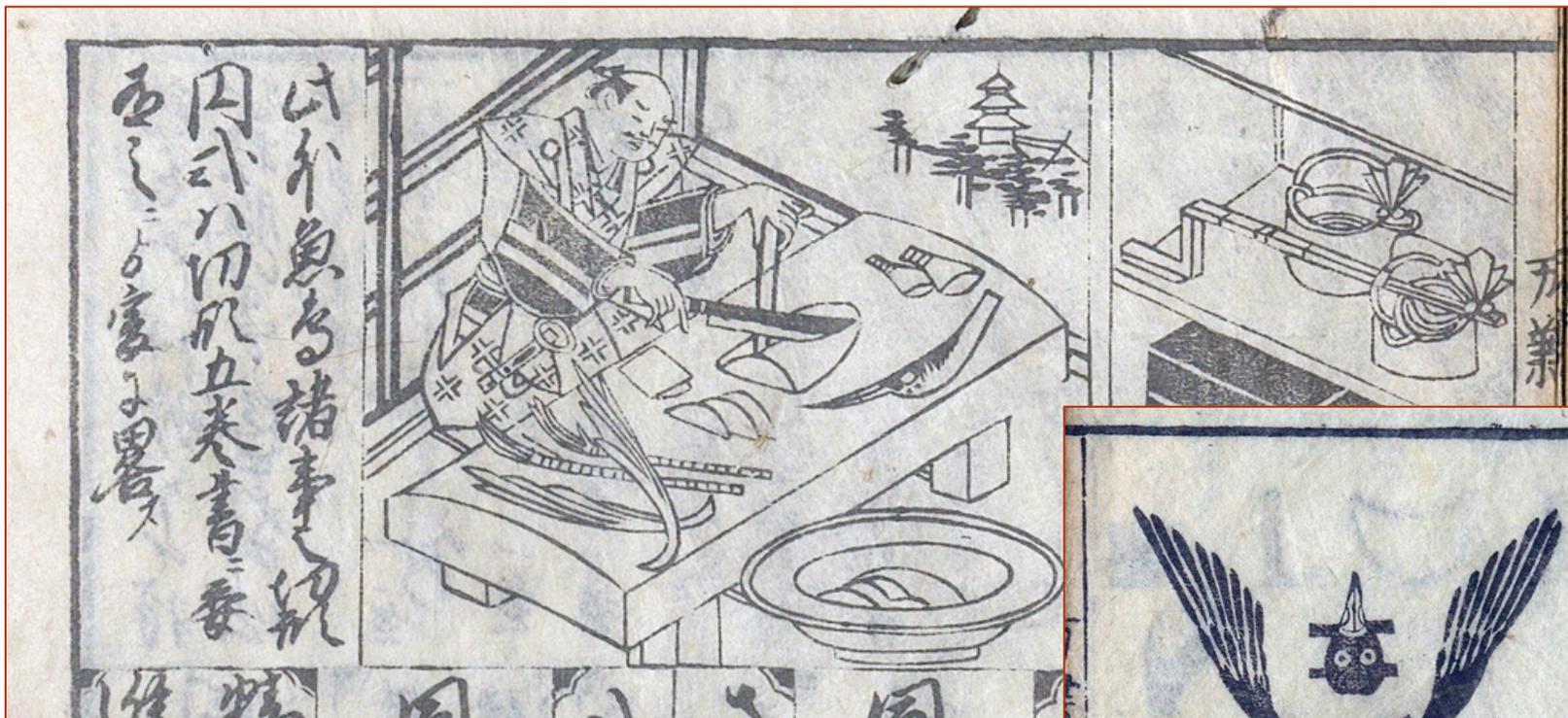
様々な書物に触れる



National Institute of Japanese Literature
National Institutes for the Humanities
Inter-University Research Institute Corporation



絵の効用（可視化することで理解力増進）



死骸を食べ物にする
儀式「包丁式」
食材を瑞祥表現
(おめでたい型) に
切り分ける



鶴も食べていた！

節用料理大全（1711頃）



魚類精進早見献立帳

魚類
精進
早見献立帳



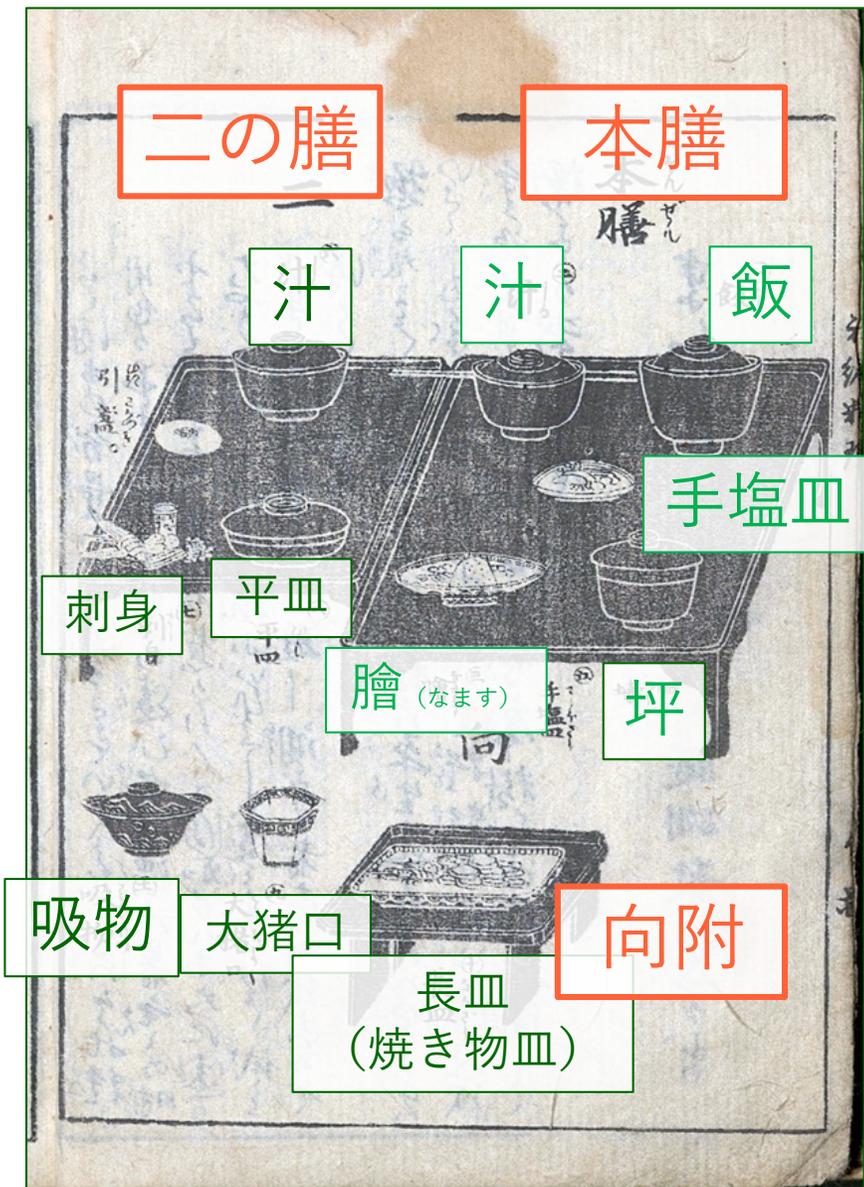
凡例

一 夫 貴人言位の内儀より庖丁
料理の家えあるを沖亭又かえの
将重あより又くこ七又と或ち
高巻平並お又く右例は式皆
おえの秘傳うそ素人の做得る
半ふあさすけ早見献立帳
年竟ん氏男の控書あ内より傳書

夫上
凡例

〇
〇
〇

かんどふ素人の料理集あつる
と知むる半はるま



本膳料理

5点 (一汁三菜) が基本形

- ①飯 ②汁物 ③手塩皿 (香の物)
- ④膾 (なます：酢の物) ⑤坪 (煮物など)

一汁三菜以上 (二の膳付)
 = 饗応 (接待) の場
 本膳のみ = 日常

「飯」につくのは「汁」
 「酒」につくのは「吸物」



〈末代嘸語〉 掃寄草紙

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00004730>

186554
大正7.3.31

富士川游寄贈

安政戊午初冬刻之



貞齋

末代
嘸語
掃寄草彙

武江

高麗氏藏



富士川游寄贈

耳掃除蔓寄草史序詞

浮屠氏の善行方便の道家深意の寓言あり。狂言綺語も讚佛乘の縁故お基く小冊ハ蓮華道子の戯里（まじ）く賣買（うりばい）から出さるる虚多（うそ）ども又退て鑑（かん）をい。歴から出さるる實（まこと）としらべし。嗚呼（ああ）禪（ぜん）文（ぶん）の歴誕（れきだん）る。紫（むらさ）系（けい）が墮（だ）獄（ごく）の前（まへ）表（ひょう）有りとも。閻（えん）魔（ま）お舌（した）と拔（ひ）る位（くらい）將（まさ）みお點（ち）心（しん）菜（さい）々（々）みて必定（びじやう）屁（へ）とも思（おも）ひさるべし。一度（いちど）是（こゝ）と披（ひ）閱（えん）し。お脇（わき）くお茶（ちや）と沸（わ）りのら彼（かの）悟（ご）味（み）莊（じやう）子の糟（うせ）と舐（な）く蔓（まき）寄草史（よせそうし）と号（な）しつりぬ

安政五戊午秋

道墮先生戯題





源氏ひながた





今様十二月





春采百人一首姫鑑





〔洛陽年中行事〕





和歌威徳物語

くさむらねくまねくさむらねくまねくさむらねくまね

子奇

車風ふも匂いとせよ梅風も
あつたうとせよまなりとれう

とらまや多しよ梅風もくさむらねくまね
をねも梅が袖ふれとあやとせよ梅風も
秋のゆきといふとく梅風も紅梅梅より
わけくくさむらねくまねくさむらねくまね
とらまや多しよ梅風もくさむらねくまね
あつたうとせよまなりとれう

石付つみしりもくさむらねくまねくさむらねくまね
或河は梅よりくさむらねくまね

ふらふら梅のよはつとせよ梅風も
くさむらねくまねくさむらねくまね

とらまや多しよ梅風もくさむらねくまね
あつたうとせよまなりとれう

先之於故宅 廢籬於久年
康鹿於任所 魚室又有記

くさむらねくまねくさむらねくまね
あつたうとせよまなりとれう



それではこのセッションを終わりにします